

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 4 日現在

機関番号：12603

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580092

研究課題名(和文) 文部科学省国費学部留学生のキャリア形成 グローバル人材のロールモデル

研究課題名(英文) Career formation of MEXT scholarship international students; role model of global talent

研究代表者

菅長 理恵 (SUGANAGA, RIE)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・准教授

研究者番号：50302899

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本で高度人材として就職し活躍している事例を中心に、元国費学部留学生へのインタビュー調査を約40件実施した。文字起こししたデータにタグ付けをして分析し、グローバル人材に求められる資質、働き方の鍵となる多文化性、学部・大学院時代に身につけた能力の活用、直面する困難点と克服方法等について論文として発表した。

最終年度には総括として「国費学部留学生のキャリア形成」シンポジウムを開催し、グローバル人材としての国費学部留学生の意義と活用について広く知らせた。

研究成果の概要(英文)：We conducted about 40 interview surveys for former MEXT scholarship international students. Many of them are active as advanced human resources in Japan. We tagged and analyzed the transcribed data and announced it as papers. The contents of the papers are "the qualities required for global talent", "multiculturalism which is the key to work", "the use of the skills acquired at the undergraduate and graduate schools" and "difficulties they face and ways of overcome" etc.

In the final year, we organized a symposium on "Forming a Career of MEXT Scholarship International Students" and gave broad notice about the significance of MEXT scholarship international students as global human resources.

研究分野：留学生教育

キーワード：グローバル人材 キャリア形成 国費学部留学生

1. 研究開始当初の背景

国費学部留学生は、最低5年間、日本での勉学・生活を保障する世界でも類を見ない留学制度であり、毎年他大な税金が投入されているにもかかわらず、大学進学後、また就職してからの実態は明らかになっていないのが現状である。実態調査と分析が必要とされている。

2. 研究の目的

本研究では、高度人材として日本で就職した元国費学部留学生に対するインタビュー調査を通して、「日本留学 日本での就職」が留学生のキャリア形成にどのような意味を持つのかをさぐり、グローバル人材養成のロールモデルを示すことを目的とする。ごきロールモデルは、内向きと言われる日本人学生に対して留学の意義を示すことにも役立つと思われる。

3. 研究の方法

日本で就職した経験のある元国費学部留学生に対するインタビュー調査を実施した。インタビュー対象者は、研究代表者および研究分担者が留学一年目の予備教育を担当した留学生であり、既にラポールが形成されているため、深度のあるインタビューを行うことができるという特徴がある。インタビューを録音・文字起こししたものを、研究データとして使用する。データにはタグ付けを行い、分析する。文字起こししたものは、インタビューした元留学生本人に校閲してもらい、研究・分析に使用する許諾をとる。また、論文文化にあたっては個人が特定されない形にするよう配慮したが、扱った対象者には、論文の校閲を依頼し、内容に誤りがないことを確認した。

4. 研究成果

(1)インタビューの結果、元国費学部留学生の多くが、日本社会の様々な分野でグローバル人材として活躍していることが明らかになった。また、日本で数年働いた後帰国し、日本と母国との架け橋として働いている者も少なくないことがわかった。

この成果については、(4)で述べるように、2017年2月18日「国費留学生のキャリア形成シンポジウム」を開催し、日本国内向けに研究成果を公表したほか、2017年2月25日に第22回メキシコ日本語教育シンポジウムにおいて、菅長理恵・中井陽子・村川永(2017)「母国と日本をつなぐ文化理解 日本留学経験の活かし方」と題して発表し、今後日本への留学および送り出しを考えている中南米の学習者・日本語教育者にも成果を公表した。

(2)インタビューデータの分析の結果、グローバル人材として活躍するためには、「人間関係構築能力」や「多文化性」が鍵となって

いることが明らかになった。このことは、留学生が日本社会の中で活躍していく際にも、今後の日本社会のグローバル化について考える際にも、大きな指針になるものと思われる。

これらの成果については、まず、2015年6月6、7日に開催された異文化間教育学会第36回大会において、菅長理恵・中井陽子(2015)「元国費学部留学生(文系)の活躍の鍵 つなぐ・つながる職業人」と題してポスター発表を行い、質疑応答とその後の調査を加えて、雑誌論文2本、菅長理恵・中井陽子(2015a)「理科系ベトナム人国費留学生のキャリア形成 - グローバル人材に必要な資質 -」『東京外国語大学留学生教育センター論集』41 29-45、および、菅長理恵・中井陽子(2015b)「日本における高度人材の働き方の鍵としての多文化性 - 文系の元国費学部留学生の事例から -」『留学生教育』20 57-66(査読有)、として発表した。

(3)留学生が学部入学後もしくは大学院進学後に直面する様々な困難点やそれらの克服方法を、インタビューのエピソードから抽出することができた。また、留学生が学部・大学院時代に身につけたアカデミックジャパニーズ(AJ)と呼ばれる能力が職場での仕事にかなり直接的に役立っているということも明らかになった。これらは、高等教育機関の果たすべき役割を考える上で大きな示唆を与えるものである。

これらの研究成果については、2015年9月19日に開催された第45回日本語教育方法研究会において、菅長理恵・中井陽子(2015)「学生時代に培われたアカデミック・ジャパニーズと職場での活動のつながり 理系・文系の元国費学部留学生の事例から」と題して発表し、また、2016年8月27日に開催された留学生教育学会第21回研究大会において、菅長理恵・中井陽子(2016)「エピソードから探る学部留学生の困難点と克服の仕方 予備教育の果たすべき役割」と題して発表を行い、質疑応答、その後の調査研究の成果を加えて、雑誌論文2本、菅長理恵・中井陽子(2016)「学生時代に培われたアカデミック・ジャパニーズと職場での活動のつながり - 理系・文系の元国費学部留学生の事例から -」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』8 55-64(査読有)、菅長理恵・中井陽子(2017)「エピソードから探る学部留学生の困難点と克服の仕方 予備教育の果たすべき役割」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43 65-79、として発表した。

(4)最後に、科研最終年度の総括として「国費留学生のキャリア形成シンポジウム」を開催し、研究成果報告を行うとともに、日本の内外で活躍する留学生4名の生の声を聴いてもらい、グローバル人材としての活躍を広く

知ってもらおう場とした。シンポジウムの質疑応答では、社会に出てから直面する様々な困難点や人間関係の問題などが取り上げられた。後輩にあたる留学生からの質問に始まり、奨学金のスポンサーである文部科学省や留学生の就職支援を行っている機関からの質問が相次ぎ、経験に基づく見事な回答が会場をうならせた。高度人材としての国費留学生の価値、プログラムの意義があらためて確認される場となった。

(5)1990年代から2000年代に来日した元国費学部留学生の多くが子育て世代となっており、日本の義務教育機関に子どもを通わせている。子どもの進学について悩み、情報収集を行っている者も少なくないことがわかった。また、ベトナム人同士で結婚し日本で働いているベトナム人コミュニティでは、元国費留学生が中心となって、継承語および文化教育のため、東京ベトナム学校を設立・運営するなどの活動を行っている。次世代がこれから日本社会の中でどのように育っていくのか、どのような支援が求められているのかについては、今後も継続的な調査が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

菅長理恵・中井陽子 (2017)「エピソードから探る学部留学生の困難点と克服の仕方 予備教育の果たすべき役割」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43 65-79 査読無

菅長理恵・中井陽子 (2016)「学生時代に培われたアカデミック・ジャパニーズと職場での活動のつながり - 理系・文系の元国費学部留学生の事例から - 」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』8 55-64 査読有

菅長理恵・中井陽子 (2015a)「理系ベトナム人国費留学生のキャリア形成 - グローバル人材に必要な資質 - 」『東京外国語大学留学生教育センター論集』41 29-45 査読無

菅長理恵・中井陽子 (2015b)「日本における高度人材の働き方の鍵としての多文化性 - 文系の元国費学部留学生の事例から - 」『留学生教育』20 57-66 査読有

[学会発表](計 6件)

渋谷博子・中井陽子・菅長理恵 (2017)「キャリア形成支援に関する基礎調査 - 留学生のための教材開発に向けて - 」第48回日本語教育方法研究会(JLEM)2017年3月

18日、於・宮城教育大学

菅長理恵・中井陽子・村川永 (2017)「母国と日本をつなぐ文化理解 日本留学経験の活かし方」第22回メキシコ日本語教育シンポジウム, 2017年2月25日, 於・El Colegio de México (メキシコシティー)

菅長理恵・中井陽子 (2016)「エピソードから探る学部留学生の困難点と克服の仕方 予備教育の果たすべき役割」留学生教育学会第21回研究大会, 2016年8月27日, 於・大阪大学中之島センター

菅長理恵・中井陽子 (2015)「学生時代に培われたアカデミック・ジャパニーズと職場での活動のつながり 理系・文系の元国費学部留学生の事例から」第45回日本語教育方法研究会, 2015年9月19日, 於・立命館大学(京都)

菅長理恵・中井陽子 (2015)「元国費学部留学生(文系)の活躍の鍵 つなぐ・つながる職業人」(ポスター発表), 異文化間教育学会第36回大会, 2015年6月6, 7日, 於・千葉大学(千葉)

中井陽子・菅長理恵 (2012)「国費留学生の日本での就職とキャリア形成 理科系ベトナム人留学生の例」(口頭発表), 異文化間教育学会第33回大会, 2012年6月9日, 於・立命館アジア太平洋大学(大分)

[図書](計 0件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅長 理恵(SUGANAGA Rie)

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
准教授

研究者番号：50302899

(2) 研究分担者

中井 陽子(NAKAI Yoko)

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
准教授

研究者番号：60398930

宮城 徹(MIYAGI Toru)

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
教授

研究者番号：30334452

花園 悟(HANAZONO Satoru)

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
准教授

研究者番号：40334453

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()